

医療を存続させる解決策がここにある 『日本医療クライシス』発売

急性期病院を中心に経営支援サービスを行う株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン（GHC※1＝本社・東京都新宿区）の渡辺さちこ（代表取締役社長）とアキよしかわ（米国GHC会長）が、『日本医療クライシス―「2025年問題」へのカウントダウンが始まった』（幻冬舎メディアコンサルティング刊）を上梓しました。

日本の財政難が危機的な状況にある中で医療を存続させて、しかも質を上げることはできるのでしょうか。日本の医療界にベンチマーク分析の概念を広めた先駆者たちが、そのための具体策を提言します。

◆日本医療の未来を左右する「医療の価値」の概念

「2025年」を目前に控えてなお、日本の医療はさまざまな問題を抱えています。

高齢化問題は今後、地方だけの問題ではなく、これからはむしろ都市部を主な舞台に進行します。これに伴い、医療や介護のニーズは爆発的に増加する見込みですが、国の財政難は深刻です。一方で、少子化の進行に伴って「生産人口」が減少すれば財政難に拍車がかかることになり、医療の効率化は避けられません。

ところが、実際の医療現場では、入院患者の平均在院日数が諸外国に比べて極端に長く、国民の医療費負担を圧迫しています。必ずしも入院が必要ではない手術や検査の外来シフトも進んでいません。大小の病院が乱立することで、医療の質を左右する症例数を十分に確保できていないという問題もあります。

医療危機を乗り切って、しかも医療の質を高めるための改革の糸口はどこにあるのでしょうか。

一つは、「高い質」と「低コスト（医療費）」の医療機関に高いインセンティブを与える評価方法です。本書では、GHCがこれまで培ってきたベンチマーク分析の手法を駆使して、「医療の価値（＝質／コスト）」の概念を取り入れた評価体系を考察します。

◆11病院の経営改革事例

さらに、病院改革に必死に取り組む全国の11病院のケーススタディーも取り上げました。掲載病院は次の通りです（登場順）。

新潟県立新発田病院／長崎原爆病院／佐久総合病院／済生会福岡総合病院／砂川市立病院／中頭病院／公立陶生病院／相澤病院／諏訪中央病院／加古川中央市民病院（仮称）／日本海総合病院

◆本書の概要

【書名】

日本医療クライシス―「2025年問題」へのカウントダウンが始まった

【共著】

渡辺さちこ、アキよしかわ

【出版社】

幻冬舎メディアコンサルティング

【ページ数】

238ページ

【構成】

第1章 三重苦に見舞われる日本の社会保障

第2章 日本の医療が直面する9つの課題

第3章 「2025年」を乗り越えるための施策

第4章 日本の医療を持続可能にする3つの提言

第5章 持続可能な医療に挑む病院の経営改革

【価格】

1500円＋税

【発売日】

2015年6月11日



(※1) 株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン

医療専門職、ヘルスケア企業出身者、IT専門家らで構成される経営コンサルティングファーム。急速な高齢化で社会保障財政の破たんが懸念される中、「質の高い医療を最適なコストで」という理念を実践する具体的な手法として、米国流の医療マネジメント手法「ベンチマーク分析」を日本に初めて持ち込み、広めたパイオニアです。詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.ghc-j.com/>

(※2) DPC

DPC (Diagnosis Procedure Combination: 診断群分類) は米国に倣った新たな病院の支払い方式に対応した診療項目の分類方法で、これまでの出来高制度と比較して包括支払い制度と言われています。積み上げ式の出来高制度では治療行為を増やせばそれだけ医業収益が増加しますが、包括支払い制度では質を担保した上で最適な医療を提供しなければ、コストがかさみ、利益を圧迫することになります。DPCデータはこうしたDPC制度下にある病院が厚生労働省に提出するもので、実施した詳細な診療データが分かります。

お問い合わせ：株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン

担当：広報室（兼松）

TEL：03-6380-2401（代表） FAX：03-6380-2402 mail：info@ghc-j.com

〒160-0022 東京都新宿区新宿6-27-30 新宿イーストサイドスクエア5F